

冬山トレーニング：富士山

◆日程 2016年12月17日(土)～12月18日(日)

◆メンバー L：須田、雫、前田、富田、小山田

12月17日(土) 天候：晴れ

5:30 に雫さんが自宅まで迎えに来てくれ、6:00 に横浜駅東口にて他3名と合流する。高速を順調に飛ばして9時前には馬返しに到着した。馬返しまで雪は全く無く、多くの車が停まっていた。今シーズンすでに3名の方が富士山で亡くなっているため登山口には警察官がいて、計画書提出の有無やルートについて聞かれた。

3合目あたりでやっと少し積雪が見られたが、5合目でも数センチしか雪がなかった。佐藤小屋から少し離れたあまり風の影響を受けない場所にテントを設営した。積雪量が少なすぎて雪から水を作るのは無理なようだ。昼飯を済ましてから雪訓を行うことにした。5合目では雪が少なすぎるため上に上がっていく。

6合目と7合目の間辺りに雪訓に適した場所を見つけた。まずはアイゼンを外して歩行訓練を行う。キックステップによる登下降やトラバースを繰り返す。その後滑落停止訓練を行った。両脇を締めて、鎖骨の下あたりでピックをガシッと雪面に打ち付けて止めるのだが、なかなか皆さん形が決まらず苦心していた。しかし続けて行くうちにだんだん様になってきた。スピードが付いたら止められなくなるので、滑落してすぐに停止することが肝要だ。

耐風姿勢も行い、16時前に雪訓を終了した。5合目のテントまで戻って乾杯する。富田さんの差し入れの山東の水餃子を美味しく頂き、具沢山の絶品鍋を食べて遅くまで盛り上がった。

CT：6:00 横浜～8:50 馬返し～9:50 二合目～10:40 四合目～12:00 五合目（テント設営）～13:00 六合目付近で雪訓～15:30 訓練終了

12月18日(日) 天候：晴れ

2日目はテント近くでビーコンを使用した捜索方法を訓練した。雪が少なかったので本当に形だけだったが、ビーコンの操作方法を実践した。雪訓を早めに切り上げ下山し、紅富士の湯という日帰り温泉に入ってから帰浜した。

CT：6:00 起床～8:30 出発～9:00 四合目～10:10 二合目～10:40 馬返し

(記：須田)

初めて冬山訓練に参加した新人会員の感想

①前田さん

横浜から見る富士山は白く、多くの雪で覆われているように見えたが、実際には積雪は少なく、岩肌も多く残っており少し残念。7合目手間付近で訓練行いましたが、アイスバーン状態の箇所もあり、アイゼンの必要性も身をもって感じる事ができ、一瞬の気の緩みが事故につながると体感できました。

訓練後の夕食の鍋はとても美味しく、星空と夜景も綺麗なこともあり、酒がすすんでしまいました。テント内も5人いると暖かいのですね。寒気を感じることなく、朝まで十分に睡眠できました。

今回は共同装備の分担をもう少し多く担当したいですね。そして、これから冬本番に向けて、より冬山を楽しんでいきます。

最期に、「紅富士の湯」で富士山を見ながらの露天風呂は格別でした。

②富田さん

1日目

1合目から5合目テント場迄のんびりと歩いて行く。5合目でテント場作りや靴紐結びなどでインナー手袋を外して作業していたら手が痺れてきた。ひょっとして凍傷の前触れかと思いあわててインナー手袋とミトンを付けた。しばらく痺れが取れなかった。天気が良いと思い安心していましたが油断禁物と思った。

テント張った後、アイゼン、ピッケルを持ち6合目へ向かい、斜面で須田さん、雫さんからピッケルを使った滑落停止、斜面の歩き方、急斜面でのトラバースの仕方、キックステップの仕方など教わる。どれもこれも全く知らない事を教わったが、それぞれその効果を実感出来た。

2日目

ビーコンの使い方を教えていただいた。二日酔いであったが新鮮で勉強になった。

雫さんの槍ヶ岳での経験話が印象に残った。事前の地図での勉強が大切であると感じた。最後になりますが1日目の夜、酒を飲み過ぎ皆へ迷惑をお掛けして申し訳ございませんでした。

③小山田さん

初めてアイゼンをつけて歩く、という経験をして、楽しいと同時に体力のなさを痛感しました。佐藤小屋から小一時間ほどの登りだけで、けっこうキツかった。慣れもあると思いますが、これはどんどん歩く経験を積まないといかん、と思いました。歩行訓練や制動もたいへんためになりましたが、最後に雫さんが話して下さった、冬山は雪崩の起きやすい箇所など、事前に調べて、きちんとした万全の準備が大切だ、夏山とは全く違う、というお話が、経験に裏打ちされた言葉で、深く受け止めないといけないな、と思いました。初めてのテント泊はたいへん楽しかったです。快くシュラフ、カバー、ピッケルを貸して下さった清田さんに感謝しています。

以上